

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築(新築)2016年版, CASBEE 建築(新築)2016年版

使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社リケン熊谷事業所	階数	地上1F
建設地	埼玉県熊谷市末広4丁目810番1他1	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	20 人
地域区分	6地域	年間使用時間	7,200 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2018年11月1日
敷地面積	4,025 m <sup>2</sup>	作成者	八田 哲男
建築面積	2,240 m <sup>2</sup>	確認日	2018年11月6日
延床面積	2,240 m <sup>2</sup>	確認者	八田 哲男



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.9

**LR のスコア = 2.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 0.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア=2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	耐用年数長い配管、節水型器具、ノン断熱材等の導入をし、長寿命化、地球温暖化について配慮している。	その他 特に無し
Q1 室内環境	評価対象外	Q2 サービス性能 空調及び給排水配管材は耐用年数の長いものを選定し、長寿命化を図る。
LR1 エネルギー	評価対象外	Q3 室外環境(敷地内) 特に無し
	LR2 資源・マテリアル 節水コマや自動水栓、節水型器具を採用し水資源の節水化を図っている。 発泡断熱材を使用せず、地球温暖化について配慮している。	LR3 敷地外環境 周辺の風環境を整え温暖環境の悪化を抑えるよう工夫されている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE埼玉県 重点項目シート












■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)株式会社リケン鹿谷事業所451工場新築工事	BEE	0.7	BEEランク	★★
------	---------------------------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
0.0	+	2.0	=	2.0	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	0.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	0.0
<配慮した内容を記述> 評価対象外			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 周辺の風環境を整え温熱環境の悪化を抑えるよう工夫されている。			

: 入力欄

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**  
 (仮称)株式会社リケン熊谷事業所451工場新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル						-	-	-	-	-
1.2 遮音						-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能						-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能						-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	-
1.3 吸音						-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御						-	-	-	-	-
1 室温						-	-	-	-	-
2 外皮性能						-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	-
2.2 湿度制御						-	-	-	-	-
2.3 空調方式						-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用						-	-	-	-	-
1 昼光率						-	-	-	-	-
2 方位別開口						-	-	-	-	-
3 昼光利用設備						-	-	-	-	-
3.2 グレア対策						-	-	-	-	-
1 昼光制御						-	-	-	-	-
3.3 照度						-	-	-	-	-
3.4 照明制御						-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策						-	-	-	-	-
1 化学汚染物質						-	-	-	-	-
4.2 換気						-	-	-	-	-
1 換気量						-	-	-	-	-
2 自然換気性能						-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮						-	-	-	-	-
4.3 運用管理						-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	-
2 喫煙の制御						-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>							0.43			<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ						-	-	-	-	-
1 広さ・収納性						-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画						-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性						-	-	-	-	-
1 広さ感・景観						-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	-
3 内装計画						-	-	-	-	-
1.3 維持管理						-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計						-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保						-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.9</b>	0.50			<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.0</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水塩化ビニルパイプ鋼管(B)、排水ポリ塩化ビニル管(B)、給湯SUS(C)、Eは不使用				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20			
2.4 信頼性						<b>2.6</b>	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						2.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.50		-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高5.350m以上	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.094 < 0.1	5.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.57		-	<b>1.9</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>1.5</b>	0.30		-	<b>1.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>2.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	-		-	-
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>							
<b>2 自然エネルギー利用</b>			-	-		-	-
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = -	-	-		-	-
<b>4 効率的運用</b>			-	-		-	-
集合住宅以外の評価			-	-		-	-
4.1	モニタリング		-	-		-	-
4.2	運用管理体制		-	-		-	-
集合住宅の評価			-	-		-	-
4.1	モニタリング		-	-		-	-
4.2	運用管理体制		-	-		-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.50		-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.6</b>	0.60		-	<b>2.6</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10		-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20		-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20		-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.20		-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10		-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		躯体+軽鉄+仕上げ材、別が容易な工法の採用	4.0	0.20		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.7</b>	0.20		-	<b>3.7</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	GW鉱物繊維系断熱材の採用、発泡断熱材不採用	5.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.50		-	<b>2.8</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			-	-		-	-
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.50		-	<b>2.7</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.0</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		1.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		1.0	-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	